

日本語専攻

🌐 日本語専攻では、外国語を身につけ、外国の事情を知った上で日本語・日本文化を客観的に捉えることに興味のある人、日本語教育に深い関心のある人、外国語を基礎にグローバルな観点から日本を世界に発信する意欲のある人を求めています。

日本語を母語として日常的に使っているみなさんの中には、「外国語学部で日本語を学ぶとはどういうことなのか?」という疑問を抱く人も少なからずいるのではないのでしょうか。しかし、ふだん何気なく使っている日本語の中にも、よく考えてみると不思議なナゾがたくさんあります。例えば日本語を学んでいる外国人から、『バス停に止まる』と『バス停で止まる』の違いは何か?とか、「どうして感謝する時に『すみません』と言うのか?」などと聞かれたら、どのように答えればいいのでしょうか。

このような問いに答えるには、母語である日本語を外から見つめ直し、他の言語と比べながら考える必要があります。日本語専攻では、日本語学・言語学・日本語教育学・日本文化学の領域にわたって、日本語を外国語のように観察して客観的に見る目を養い、幅広い視野から日本語・日本文化を捉えることのできる人材の育成を目指しています。日本語専攻の学生はそれぞれ、24の言語のうち一つを専攻言語として学ぶことになっています(*)。外国語を学んだ上で日本語を深く探求できるのは、外国語学部の日本語専攻だからこそできる最大のメリットです。また、日本語専攻には毎年10名の留学生が入学して、日本人学生と共に学んでいるので、教室の中でも日常的に多言語・多文化環境が実現されています。さらに、日本語教育に関心のある人には、教育実習の目的を兼ねた海外派遣や交換留学の機会も設けています。

外国語を身につけて日本を世界に向けて発信したい・日本と世界との交流を通じて社会に貢献したい・外国語の言語能力を活かして日本語教育の現場で活躍したいなど、グローバルな視点に立って日本語と関わり合いたいと願うみなさんにぜひ来ていただきたいと思えます。

(*)専攻言語について

日本人学生については下記の24専攻言語の中から一つ。なお、外国人留学生については日本語。

<専攻言語>

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、デンマーク語、スウェーデン語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語

学生の声



2年 宮田 瑞穂

「初めまして、日本語専攻2年の宮田瑞穂です」さて、あなたはこの自己紹介を聞いて、どう思いましたか?「私も日本語専攻に入りたい!」一ぜひぜひ入ってください。後悔することなど何もありません。「日本語を大学で勉強するってどういうこと?」一今から魅力を紹介しますので、ぜひ最後までご一読ください。

今読んでいる方の大半は、日本語を不自由なく使えると思います。でも、「日本語を話せる」というのと、「日本語をよく知っている」というのは少し違います。「私は宮田瑞穂です」「私が宮田瑞穂です」この二つの文はどう意味が違うのでしょうか。「美しくない」は正しいですが、「きれいくない」はどうですか?その理由は?

こういう疑問は、日本語を習う外国人の方からどんどん出てきます。その疑問に、答えてあげられるようになるために、そして、普段使っている「日本語」について、より深く知るために、私たちは日本語について日々考えています。

「外国語学部に入ったんだから、外国に行きたい」と思っている方、日本語専攻だって外国に行けますよ。日本語教師として、外国に行くのです。そこでの経験は、自分のためにも、もちろん生徒たちのためにもなります。また違った視点から、「日本語」を見る事が出来るのです。

普段何気なく使っている「日本語」。その中には、たくさんの「不思議」が詰まっています。その「不思議」を探る4年間の旅に、共に出発してみませんか?



留学体験記



4年 萬代 華帆

私は2015年に国際交流基金アジアセンターの「日本語パートナーズ」プログラムに参加し、タイの学校で日本語教師のアシスタントとして日本語教育現場に携わりました。私が派遣されたプレーという町は、タイ北部ののどかな雰囲気の魅力の町でした。田舎で日本人もほとんどいない環境でしたが、学校の先生方や生徒、そして親切な町の人々に助けられ、とても幸せに過ごすことができました。タイの中高生は日本の中高生に比べると少し幼い印象も受けますが、みんな素直で好きなものに一生懸命。教える立場である私も、いつもキラキラした笑顔で「先生!おはようございます!」と声をかけてくれる生徒たちからたくさんのお話を学びました。

外国語学部の学生の多くは在学中に海外へ留学します。タイでの生活を通して、海外へ「教わる」立場で行くことと「教える」立場で行くことは全く違うと感じました。もちろん、留学してその国の言語や文化について理解を深めることもとても大切なことだと思います。しかし学生ではなく先生としてその国の人々と関わり、日本人がいない環境で日本の「顔」として生活するという経験は自分を大きく成長させたと思います。また、同時に、日本に興味を持ってくれる人々や日本語を勉強する人々の力になりたいという気持ちはより強くなりました。私はこれからも日本語教師を目指して勉強を続けていこうと思っています。

